

図書館展示 1月●2007年



期間●2007年1月9日～1月31日

# 《希望と栄光の国》

～エドワード・エルガー生誕150年～

*Land of Hope and Glory*

場所●図書館ブラウジングルーム

企画●三宅巖（国立音楽大学附属図書館）



# 《希望と栄光の国》

～ エドワード・エルガー生誕 150 年 ～

## Edward Elgar “Land of Hope and Glory”

2007 年はイギリスの作曲家エドワード・エルガー（1857～1934）の生誕 150 年にあたります。

今回の展示では、エルガーの作品の中で日本では最も有名な、行進曲《威風堂々》第 1 番とその中間部に歌詞をつけた《希望と栄光の国》について取り上げたいと思います。



### 目次

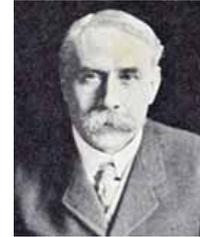
作曲者の略歴	2
行進曲(威風堂々)第1番	2
《希望と栄光の国》	2
《戴冠式頌歌》の歌詞	3
《希望と栄光の国》改作版の2番歌詞対訳	3
おわりに	4
展示資料紹介	4

企画・構成 三宅巖（国立音楽大学附属図書館閲覧参考部）



## 作曲者の略歴

エドワード・エルガー(Edward Elgar)は1857年6月2日、イギリスのウースター郊外ブロードヒースに楽器商の子供として生まれた。年少の頃から音楽に親しんだエルガーは独学で作曲を学ぶ傍ら、ヴァイオリンやピアノ教室を開いて生計を立てていた。1889年にその音楽教室で出会ったキャロライン・アリス・ロバーツと結婚し、本格的な作曲活動を始めた。1899年に「エニグマ」変奏曲を作曲、初演は大成功し名声を獲得した。1900年「ゲロンティアスの夢」を作曲。1904年ナイトに叙される。1908年に交響曲第1番、1911年に交響曲第2番を作曲。1918年チェロ協奏曲を作曲。翌1919年に最愛の妻アリスを病気で失ったエルガーは目ぼしい作品を作曲することはなくなった。その代わりに自作を指揮しての録音を数多く行った。1911~12年にハンス・リヒターの後任としてロンドン交響楽団の首席指揮者に就任。1931年准男爵(パロネット)に叙される。1934年2月23日76歳で死去した。



Edward Elgar  
(1857-1934)

## 行進曲《威風堂々》第1番

行進曲《威風堂々》第1番は1901年に作曲された。《威風堂々》の原題“Pomp and Circumstance”は、シェイクスピアの戯曲「オセロ」の第3幕第3幕の台詞“The spirit-stirring drum, the ear-piercing fife, The royal banner, and all quality, Pride, pomp, and circumstance of glorious war!(魂を打ち鳴らす太鼓、耳を貫く笛の音、そして高貴な旗、栄光に輝く威風堂々たる闘い)”から取られている。1901年10月19日リヴァプールで、アルフレッド・ロードウォルドの指揮、リヴァプール・オーケストラ協会の演奏で初演された。ロードウォルドはリヴァプールの繊維会社の経営者でリヴァプール・オーケストラ協会の主宰者で、エルガーの良き理解者だった。エルガーはこの曲を彼とそのオーケストラに献呈している。その3日後のプロムスでヘンリー・ウッドの指揮でロンドン初演された。聴衆に大好評で2度にわたるアンコールの演奏を行ったことが逸話として伝えられている。

## 《希望と栄光の国》

エルガーは当時の国王エドワード7世に「あなたは世界中の人々が広く口ずさむようなメロディを作曲しましたね」と賞賛され、《威風堂々》第1番の中間部の旋律に歌詞をつけたらどうかと提案されている。翌年、エルガーはエドワード7世の戴冠を祝うために作曲した《戴冠式頌歌(Coronation Ode)》の終曲に「希望と栄光の国(Land oh Hope and Glory)」というアーサー・クリストファー・ベンソンによる歌詞をつけた。

これに目をつけた楽譜出版社のブージーは、この「希望と栄光の国」を独立して売り出そうと考えて、作詞家のベンソンと作曲家のエルガーに改作を提案した。同じ年に独立した1曲の歌曲として《希望と栄光の国》が完成し、エルガーの指揮、クララ・バットの独唱により1902年6月に演奏が行われた。この曲の演奏の方が《戴冠式頌歌》の初演よりも約3ヶ月早かった。この時に改作された歌詞の2番が今日「プロムス・ラスト・ナイト」で歌われる歌詞と同じものである。

結局この曲は、トーマス・アーンの《ルール・ブリタニア》、ヒューバート・パリーの《エルサレム》と共に「第2の国歌」のように人々に歌い継がれるようになった。

## 《戴冠式頌歌》終曲の歌詞

Land of Hope and Glory,  
Mother of the Free,  
How may we extol thee,  
Who are born of thee?

Truth and Right and Freedom,  
Each a holy gem,  
Stars of solemn brightness,  
Weave thy diadem.

Thou thy way be darkened,  
Still in splendour drest,  
As the star that trembles  
O'er the liquid West.

Throned amid the billows,  
Throned inviolate,  
Thou hast reigned victorious,  
Thou hast smiled at fate.

Land of Hope and Glory,  
Fortress of the Free,  
How may we extol thee,  
Praise thee, honour thee?

Hark, a mighty nation  
Maketh glad reply;  
Lo, our lips are thankful,  
Lo, our hearts are high!

Hearts in hope uplifted,  
Loyal lips that sing;  
Strong in faith and freedom,  
We have crowned our King!  
(Benson)

## 《希望と栄光の国》改作版の2番歌詞対訳

Land of Hope and Glory,  
Mother of the Free,  
How shall we extol thee,  
Who are born of thee?  
Wider still and wider  
Shall thy bounds be set;  
God, who made thee mighty,  
Make thee mightier yet,

希望と栄光の国、  
自由の母  
汝から生まれた我らはどんなふうに  
汝を誉め讃えられようか？  
汝の領域は  
なお益々広がるであろう。  
汝を強力に造られた神は  
汝をさらに強力にされよう。

(三浦淳史:訳)

## おわりに

この〈希望と栄光の国〉の旋律はホルストの組曲〈惑星〉の「木星」の中間部と並んで非常に有名で、クラシック音楽以外の様々なところで使用されている(TVドラマ「合い言葉は勇気」のテーマ曲、味の素「CookDo」のコマーシャル、アニメ「あたしんち」のエンディング曲「来て来てあたしんち」、映画「交渉人 真下正義」のエンディング曲など)。一方、ホルストの「木星」も同様である(平原綾香の「Jupiter」など)。

このホルストの「木星」が〈希望と栄光の国〉と同様に歌詞をつけられて聖歌として発表されているのをご存知だろうか。曲名は〈祖国よ、私は誓う(I Vow to Thee, my Country)〉。1918年に発表され、1921年に楽譜が出版されている。1997年のダイアナ元英皇太子妃の葬儀で追悼曲として演奏されているので聴いた事がある人がいるかもしれない(参考資料 CD の XD40082 に収録されている)。

いつの時代でも人の考えることは同じなのかも知れない。

## 展示資料

---

---

### パネル

「クレイグ・リー」で作曲中のエルガー

モールヴァンの自宅「クレイグ・リー」で撮影されたエルガーの写真。エルガーはこの家で〈威風堂々〉(戴冠式頌歌)〈希望と栄光の国〉の作曲を行った。

モールヴァン

エルガーの生地ウースターの南にあるモールヴァン・ヒルから見たモールヴァンの町並み。

モールヴァンのエルガーの自宅「クレイグ・リー」

1899～1904年の間エルガーが住んでいた自宅。自分(エドワード)、妻(アリス)、娘(キャリス)の頭文字(E,A,C)と姓(Elgar)を並べ替えて「クレイグ・リー(Craeg Lea)」と名付けられた。

エルガーと妻アリス

エルガーは、1889年にキャロライン・アリス・ロバーツと結婚した。アリスの内助の功がエルガーを偉大な作曲家に育てた。1919年のアリスの死後、エルガーが目ぼしい作品を生み出すことはなくなった。

晩年のエルガー

1932年に未完に終わった交響曲第3番を作曲中のエルガー。交響曲第3番はアンソニー・ペインによって1997年補筆完成し、初演された。

〈威風堂々〉第1番の手稿譜(一部)

行進曲〈威風堂々〉第1番は1901年に作曲、同年10月19日リヴァプールで初演された。ロンドン初演はその3日後で、大好評のため2度にわたるアンコールの演奏を行った。

エルガーとロンドン交響楽団

エルガーは1911～12年にハンス・リヒターの後任としてロンドン交響楽団の首席指揮者に就任した。

#### エルガーの録音風景

1915年にグラモフォン社(現EMI)の録音スタジオで撮影されたエルガーの録音風景。エルガーはイギリスの作曲家の中で、ベンジャミン・ブリテンと並んで自作自演の録音が多い。

#### エルガーの演奏会を録音する録音機材運搬車

移動録音を可能にしたモービル車(トラック型の簡易録音機材運搬車)の登場によって、エルガーの演奏会はライブ録音されて、英国全土で聴かれることになった。

#### エルガーと愛犬たち

妻アリスの死後、エルガーにとって最大の楽しみの一つが、マイナ、メグ、マルコの3匹の犬たちとのふれあいであった。エルガーの生涯最後の作品が愛犬の名前をつけた(マイナ)だった。

#### エルガーとユーディ・メニューイン

1932年、当時16歳のヴァイオリストのユーディ・メニューインが、エルガーの指揮の下、(ヴァイオリン協奏曲)の録音をアビー・ロード・スタジオで行った。メニューインは(ヴァイオリン協奏曲)をソリストとして3回、指揮者として2回、合計5回録音している。

#### エルガーとピアトリス・ハリソン

エルガーは、(チェロ協奏曲)を、自身の指揮、女流チェリストのピアトリス・ハリソンのソロで、1919~20年と1928年の2回録音している。これらの録音と1965年のジャクリーヌ・デュ・プレの録音によって、「エルガーの(チェロ協奏曲)の独奏は女性に限る」というジンクスが生まれた。

#### エルガーのイラスト

アーネスト・フォースによるエルガーの指揮姿のイラスト。

#### エルガーと娘キャリス

1890年8月14日、一人娘のキャリス・アイリーンが誕生した。名前は母親のキャロライン・アリスから取って名付けられた。

#### エルガーと兄弟たち

エルガーは、1857年6月2日に楽器商の7人兄弟姉妹の4番目の子供として生まれた。1868年に撮影された写真の真ん中のテーブルの右に座っているのがエルガー。

#### 図書

Michael Kennedy “Portrait of Elgar. 3rd ed”

オックスフォード大学出版 1987 請求記号 C44-091

イギリスの音楽評論家でエルガー研究の第一人者マイケル・ケネディによるエルガーの伝記。巻末に詳細な資料集が掲載されている。

Jerrold Northrop Moore “Edward Elgar : a creative life”

オックスフォード大学出版 1984 請求記号 C39-534

マイケル・ケネディと並ぶエルガー研究者ジェロルド・ノースロップ・ムーアによるエルガーの伝記。

Robert Anderson “Elgar in manuscript”

ブリティッシュ・ライブラリー 1990 請求記号 C53-078

未完に終わった交響曲第3番を含むエルガーの手稿図版86点が掲載されている。

Anthony Payne “ Elgar s third symphony : the story of the reconstruction ”

ロンドン Faber and Faber 1998 請求記号 J88-616

交響曲第3番の補筆作業を行った作曲家アンソニー・ペインによる交響曲第3番の補筆作業の解説書。

“ Elgar, a life in photograph ”

オックスフォード大学出版 1971 請求記号 C16-839

エドワード・エルガーの写真集。エルガーとその家族、家や演奏会の写真等が掲載されている。

水越健一著『エドワード・エルガー 希望と栄光の国』

武田書店 2001年 請求記号 C65-574

エルガー協会会員である著者による日本語で書かれたエドワード・エルガーの本格的な解説書。

(希望と栄光の国)について詳細な解説が掲載されている。

山尾敦史著『ビートルズに負けない近代・現代英国音楽入門』

音楽之友社 1998年 請求記号 C63-079

日本語で書かれた初めての近現代イギリス音楽の解説書。エルガー、ホルストについても一章を当てて紹介している。お薦め CD ガイド付き。

マイケル・トレンド著、木邨和彦訳『イギリス音楽の復興』

旺史社 2003年 請求記号 J99-680

エルガーからベンジャミン・ブリテンまでの近代イギリス人作曲家の生涯とその音楽についての解説書。

## 楽譜

“ The royal golden jubilee : music collection 1952-2002 ”

ロンドン Wise publications c2002 請求記号 F22-702

英国の儀式祝典で歌われる曲を集めた曲集。(希望と栄光の国)ピアノ編曲版と、ホルスト(祖国よ、私は誓う(I Vow to Thee, my Country))を収録。

“ Pomp and circumstance : military march no. 1-5 Op.39 ”

ロンドン Boosey & Hawkes 1977 請求記号 E9-695

行進曲(威風堂々)全曲のミニチュアスコア。

“ Land of hope and glory ”

ロンドン Boosey & Hawkes c1954 請求記号 G5-145

(希望と栄光の国)のピアノ編曲スコア。

“ Pomp and circumstance : military march no. 1 Op.39 ”

ロンドン Boosey & Hawkes 1930 請求記号 G5-146

行進曲(威風堂々)第1番のピアノ編曲スコア。

“ Pomp and circumstance. Trio from march no. 1 ; Trio from march no. 4 ”

ロンドン Chester Music c1994 請求記号 H39-120

行進曲(威風堂々)第1番、第4番のトリオを金管五重奏に編曲したスコア。

“ Singing for pleasure : a collection of songs ”

オックスフォード大学出版 c1957 請求記号 F2-822

ホルストの娘イモジェンの編集した合唱曲集。ホルスト(祖国よ、私は誓う(I Vow to Thee, my Country))を収録。

## 録音資料

### 行進曲(威風堂々)作品 39 全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団 1976 年録音 請求記号 XD2822  
アンドレ・プレヴィン指揮、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団 1987 年録音 請求記号 XD3289  
バリー・タックウェル指揮、ロンドン交響楽団 1988 年録音 請求記号 XD6833  
アレクザンダー・ギブソン指揮、スコットランド・ナショナル管弦楽団 1978 年録音 請求記号 XD7944  
ジョン・バルビローリ指揮、フィルハーモニア管弦楽団、他 1962、1967 年録音 請求記号 XD18784  
チャールズ・グローヴス指揮、フィルハーモニア管弦楽団 1988 年録音 請求記号 XD25676  
エイドリアン・ポルト指揮、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団 1976-77 年録音 請求記号 XD40492-7

### 行進曲(威風堂々)第 1 番作品 39-1

レナード・バーンスタイン指揮、BBC 交響楽団 1982 年録音 請求記号 XD561  
アンドルー・ディヴィス指揮、BBC 交響楽団 1991 年録音 請求記号 XD22736  
大友直人指揮、ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ 1995 年録音 請求記号 XD33910  
ハインツ・ワルベルグ指揮、NHK 交響楽団 1981 年録音 請求記号 XD46960

### 行進曲(威風堂々)第 1 番作品 39-1(合唱付)

アンドルー・ディヴィス指揮、BBC 交響楽団、他 1994 年(プロムス・ラスト・ナイト)録音 請求記号 XD31420  
ロジャー・リントン指揮、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1996 年録音 請求記号 XD38930  
バリー・ワーズワース指揮、BBC コンサート管弦楽団、他 1996 年録音 請求記号 XD40082  
レナード・ストラキン指揮、BBC 交響楽団、他 2003 年(プロムス・ラスト・ナイト)録音 請求記号 XD54427

### 行進曲(威風堂々)第 1 番作品 39-1(吹奏楽)

ヴィヴィアン・ダン指揮、ロイヤル・マリーンズ・バンド 1962 年録音 請求記号 XD17540

### 行進曲(威風堂々)第 1 番作品 39-1(金管五重奏)

Concert Arban 1985 年録音 請求記号 XD13600

### 行進曲(威風堂々)第 1 番作品 39-1(オルガン)

ロジャー・フィッシャー(オルガン) 1990 年録音 請求記号 XD15707  
クリストファー・ヘリック(オルガン) 1987 年録音 請求記号 XD22549  
トーマス・トロッター(オルガン) 1992 年録音 請求記号 XD22646

### 行進曲(威風堂々)第 1 番作品 39-1(電子オルガン)

松本淳一(電子オルガン) 1999 年録音 請求記号 XD47279

### (戴冠式頌歌)作品 44

アレクザンダー・ギブソン指揮、スコットランド・ナショナル管弦楽団、他 1977 年録音 請求記号 XD7945

## 映像資料

「エルガー:ある作曲家の肖像」1962 年 請求記号 VB1852

### 行進曲(威風堂々)第 1 番作品 39-1(合唱付)

アンドルー・ディヴィス指揮、BBC 交響楽団、他 2000 年(プロムス・ラスト・ナイト)録画 請求記号 VE347

### (愛のあいさつ)作品 12

仲道郁代(ピアノ) 1990 年録画 請求記号 VD651

オーフラ・ハーノイ(チェロ)、マイケル・デュセク(ピアノ) 1990 年録画 請求記号 VD656

ウラディーミル・スピヴァコフ指揮、モスクワ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団 1993 年録画 請求記号 VE198

### 弦楽セレナードホ短調作品 20

マーク・ターチャー指揮、グルノーブル器楽合奏団 1989 年録画 請求記号 VD755

### オルガン・ソナタ長調作品 28、他

カルロ・カーリー(オルガン) 1993 年録画 請求記号 VD1713

### (エニグマ)変奏曲作品 36 より「ニムロッド」

ダニエル・バレンボイム指揮、ウェスト=イースタン・ディヴァン・オーケストラ 2005 年録画 請求記号 VE1335-6

### チェロ協奏曲ホ短調作品 85

ジャクリーヌ・デュ・ブレ(チェロ)、ダニエル・バレンボイム指揮、ニュー・フィルハーモニア管弦楽団 1982 年録画 請求記号 VD487

図書館展示 1月 2007

《希望と栄光の国》  
～ エドワード・エルガー生誕 150 年～

**Edward Elgar**  
**“ Land of Hope and Glory ”**



展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2007.1.11 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会:高田涼子・三宅巖